

中洲の華英 全

中洲之華英 完

天明九年己酉
南之抄
子

13
2947
20



へ13 20
 3008
 のあかん
 の己高
 正月二日

3008

2947
20

中洲華美

假宅ノ世界ニ

昭和九年
七月一日
購本

中洲之華美自叙

馬込多し亦一集入り
 金かるを如何し
 此の國は
 揚格の契情も
 いかに里ふる
 繁榮の國
 亦外飾育

百卷三

ゆつとけむる見ぬ。二階の檻。日々河邊見水
流と紙式部^{せうしきぶ}の侍^{さむらい}年^{とし}。勢方^{せうはた}弊^{ぢやう}多^{おほ}むあふ
州^す乃^{なり}君^{きみ}多^{おほ}むあふ。見^みてきて以^{もつ}つ不夷^{ふい}州^すも
腰^{こし}正^{ただ}ゆつ。氣^けの利^り多^{おほ}む仙人^{せんじん}も。この河^かを
踏^ふまへ。と上^あより落^おつ。美人^{びじん}州^すの
全盛^{ぜんせい}多^{おほ}む。仙^{せん}臺^{たい}河^か岸^{がし}の矢^や来^{らい}とあまも
あまふあふの。あまも美^いなるも一人^{ひとり}とて
弟^{あにいまた}引^ひけ乃^{なり}居^いも也^{なり}。さ終^{つひ}バ詔^{みこと}よ曰^い

里^{さと}仁^に爲^な美^み擇^{たく}んさ。客^{きやく}必^{かならず}多^{おほ}むせんは
焉^ゆ利^りを得^えんと故^{ゆゑ}年^{とし}。手^てもなく。假^{かり}里^り擇^{たく}
中^{ちゆう}例^{れい}乃^{なり}其^{その}美^みと親^{かみ}と。讀^{よみ}者^{もの}足^あを嘲^{あざわら}々^々
真^ま土^と乃^{なり}如^{ごと}く。さすも。予^よハ河^か臺^{たい}
乃^{なり}底^{そこ}も。おもひ。唯^{ただ}世^よ間^{かん}を。水^{みづ}臺^{たい}と
中^{ちゆう}のすあふ

申^{まを}の
中^{ちゆう}呂^{りょ}
有^あ難^{なん}山^{さん}人^{じん}書^か于^に鸞^{らん}鳥^{てう}堂^{だう}



目錄

才壹	當世流行
才貳	並木の一番
才參	小通の登樓
才四	息行の謔言
才五	見出の閨乱
才六	二尊の談合
才七	高尾の解脫

假里擇

曾子曰十目所視十指不揃あつらん倡妓も糸竹の
 道を考へむとしとすいへま一岸切ハ禁物なりとく
 さハ以後の切るとありかゞ割わをたす女
 席あり。一の糸乃切まろくうま一あまの妓者
 も。人の公ハ面のうあくう浮う氣き又ま風かぜ上かみ散ちりやまき
 花はなのな雲くも陸りくハは世ようう淺あ草くさのらんんの家ハ
 嵩たか谷や筆ふでをあらひ。弓ゆみ弦ひをあらひ無な山やま乃

大らハ柴と誠して多料糧を結ぶ。え物の
君まハけしひの體を松をりしよあり糸ぞと
アとめいしく。云々ハ。云々まのうらくと團扇く
さらく柳子の星ハ視貝をわしはぬて舟ヶ
二すい扇風を小梅よ五船渡よ何れ糸ぞと
のうあい
葉合ハかましいませぬ。サ。とら内母さんなま
と結葉子と多うする。電箱ハ。お花折糸
を厨子入よなり。くさくさ。糸舌ハ箱の中

と假ふとら。聖校よ多とたせハおごう酒
のかんたんハ椎の実を毛をとりんく。釘の折の
毛靴とあ。い。い。い。の各物玉あまの
筆ハ世居の菊葉のどし。お給よお水
あまハ糸染れ。といふ解有り。玉まさんぢう
乃原味よき。お市が毛襦袢もたるとる。お
神圃者大事の唄海あり。て。釈考あり
乃原身を賣あつる。園崎町より。二五二の

忠臣如く 御免の板屋ともいひあやしく。是
ぞ世人の徳業をとりぬ 御代のまゝし
かゝる例ハ 御静よおひて。いさゝか
と里元の天神結びよ。地元の、徳田
いさゝか 醜女もまゝ氣ふえぬ。風流よ
はる川春日町ともあはれ。はる川
踏分一まの葉もまゝ。はる川
声まゝ。時ハ。葉屋のかせまゝ。まゝ

出で又出で。亀の甲ハ。似も中ぬ。万
神酒の只は。法儀の目と。懐も。む。大極上。油
御。は。法用。向の。か。け。は。板。活。町。か。れ
な。く。ま。向。台。の。方。灯。の。油。膏。と。見。て。耗。も
あ。は。れ。火。き。ま。た。急。の。薄。紙。師。ハ。吐。料。よ。不。及。せ
か。る。は。不。面。よ。人。ま。ま。く。遠。目。よ。ら。ん。ら。の
見。物。よ。と。あ。ふ。新。道。の。吐。料。よ。不。及。せ
う。く。大。入。ま。ま。ま。ま。ハ。換。町。の。正。助。よ。け。あ。ま。ま。

湯島の天神と芝神の市地門よあまのりて
人形戯場真打がせ八中の芝居で能を
ちよめ又子供をうづらんとおらとまふ
栗屋新及の竹科業あつが力りち八少
鴻の足せものをめくおよせ紀お八丈掛
あく度くあつらとまふかぐとまふあぬ
編みも人目の園の大門や中法所ふと
たぬ友権とまふとまふ白英をまふ

かあああだ江戸舞のいろとら八とら八
夜の俄目限をきく糸も十日せは仕舞ふ
遊人室あひまう。強を舞一奮ときんむ
五更よ一雨十歩小一角を擲ども。視令如土
塊素の宮室ふりうき青楼も束のろふ
魚王とやんぬ了隣近く色教と考ふ辰
乃四月燬くするこのふ。三月のふ四年辰
とまふ是織ふ不めまふのあんああし

さうやぶふく。きふれこひ月落を待たぬ
降月。籬家の目もくまなく。聖徳太子朝まじ
りや。飛鳥空ぞといふ声よどくの白雲もあ
らんも。密林のどく散乱なり。いろせまむい
まぬくみ。吸付多むまこの火ふおろせ。保る
あふらまの清へ逆て今戸るかみなり。橋
場の宴や檀形あ。和る三谷をきよめて
まぢりくやどりを見ゆる

○並木の一篇

易よ曰同声相應。同氣相求。目のこころ
こと。玉うらふべ。おまのあやうし。みよりの
おひ側のもて。青楼。葎。葎。葎。乃
室年。條と皆中の所の葉をわら。見帰
柳乃葉よ。いりま。柳格のきよの。之。ね。ね
み。ち。より。角。所。の。見。美。い。く。よ。あ。あ
らん。葎。葎。も。あ。づ。く。浮。世。を。の。く。ま。ひ。ほ。く



まのく二階中をくまるとまのく事。切賣
乃及事よせし。乃よあづらぬ腰のよも
口控のく相へといまば。初今の市番も大
晦の燈籠のどく。さゆく着ひこもめがらぶ
うまば。乃く市番も角田川の名酒あき
なふ酒よななりりもいりりまのふ乃
例ぞりよ六瀬となる。しぎや今まで
ありつる安。さうく船控の容貌を見し

標船をうかめて大行を濟り。ういこ並まを
引拂て三股ふり。ふ愛万に有為精宅
の世なりりり

小通の登樓

酒奥よ日強く。乃師ハ在中初空飛く
倡共両国よ義徒あり見義いめ。氣
有政所よはは。乃方控をゆ。袖の梅
平次とば。山屋豆腐よまごけまごも。船乃

思れさうめんのついでと母も。あゝきりん
がうのちうめんの山袖。前まむせの帯も母も刀
をきめな。あゝいさむせのいと 大橋
時よこのちうを通うといふ。河津通うを
りと。ゆと屋の菊もつんけりといふ。菊
さき藤やのねえがめ後か。つとあつら。菊
が裁してまゝ。あやまうす。天代 母も船高
の若草の葉がまはる。河津もつんけり。後か

又うう後か。後 大 娘の母といふ。氣が
有るを 采 玉もつんけり。目附の娘と 大 智也をい
ふ。 采 玉もつんけり。 大 智也をいふ。 采 玉もつんけり。
中より 采 玉もつんけり。あゝいさむせのいと
一人まへぐみす。又七子也。又出を助も。二せんと
その 采 玉もつんけり。いさむせのいと。 采 玉もつんけり。
ちうよ帰るも。母のいと。後か。後か。 采 玉もつんけり。
 采 玉もつんけり。 采 玉もつんけり。 采 玉もつんけり。

あ通のどろとよる若いよめおたけりせむのちぶづりこと
ころまやんとびりあ通の二つの上りやまど分りころち
てぞけりますと若いよめのちあわい一つは二階より竹まけ
ばあてこやんと若いよめをせりあんととちあわいぬてた

大 夏ハル一あつてまあて去年の終り巻よま

中人まどその時のあまをいさむとを穿つよめ

連が家の一上まどかざことぬう。一まもあま

ずいよりのときげいやまきびのぬいぬう

ぞんとさるだ中一ぬふが探^{らんま}るをりてら除

し千るが彫^{ぼり}くごせむとそとて一首よの中

永 かなしく大 除中をかりしけあ家のなひ

んまあ我よゆうのゆえなるん 永 押し

ゆいあ我ゆゆうとヤ物日があひやまるとのあ

出舞あけせいあはゆるふ人音といよあまかうさくの事
なれいこのこよまへさきもなくまよりあ例の通ああ

永 ナトげいもまよびふあゆるとヤ移へら

大 まが能るゆへごのくあまわうよ二旋^{つづ}轂の巻

次ごまゆるあゆひのちりくらあや 川 かと

まうまうしてとわいふうはあは 大 是うの巻を

出せしうらむが^{モウ}行もく^久移せ。今ハ^ウあで
あこ^いぬのんで^大ち^ウて^一常^一病^一明^一ぶ^一
^{カダキル}
[美]ぬ^一や^一ん^一ど^一群^一の^一め^一の^一か^一ま^一よ^一大^一 ^アイ
し^一の^一ま^一た^一ど^一の^一は^一わ^一ら^一い^一の^一連
き^一ん^一か^一る^一と^一て^一あ^一ま^一し^一の^一ま^一は^一い^一あ
披^一の^一在^一次^一雜^一次^一ま^一る^一。ま^一ん^一は^一定^一の^一通^一り^一あ^一ら
あ^一い^一の^一ま^一は^一い^一ま^一ん^一の^一ま^一は^一い^一ら^一あ^一い^一
ら^一い^一の^一ま^一は^一い^一ま^一ん^一の^一ま^一は^一い^一ら^一あ^一い^一

た^一ら^一く^一や^一な^一ハ^一箱^一の^一報^一を^一出^一す。あ^一ら^一を^一
あ^一ら^一く^一な^一ど^一あ^一ら^一く^一に^一く^一る。能^一次^一ハ^一法^一の
て^一し^一を^一合^一を^一承^一ま^一の^一法^一草^一で^一思^一う^一け^一ら^一う^一ぞ
こ^一い^一ま^一い^一の^一箱^一ち^一の^一判^一事^一が^一あ^一ら^一う^一ま^一り^一て
田^一町^一ま^一り^一く^一系^一の^一あ^一ら^一く^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一
^む
る^一道^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一
て^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一
た^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一の^一あ^一ら^一く^一

よ同妻菴あなのやうにふりてきた。おまのやまの
とらへ夜いに實まはるたのゆに登丹いのよ子
供いをどとせも。今度のやけかゝるひつとて。
ふーくをひ物をして。小すの登の物らん世
ゆんよなるく。け申通と紙して来た。く。
かえのゆ供ハい子グニ三人有うとが今もれが
みんかんやまけいひぐらうも有うて内中が
御く来た。が丹増むうらうたなよおつく

何ともせぬよいらのさ。何とかがいふのまぞ知ッ
く居ます。まゆい先あま知うと後小い雑い究い知り
男らめらあゝこの事どとばりませう大ウ
有りうとてい 是よりお世に雑のい実のたがらんうとひ
山田の解の かーいあま 永 ヤンヤ 二丁報いまや後二挺い雑い究い知
大喜い婦いの女いを世いのよいウ 菊らんごいのよいらん
す後大時いよいのよいが書いの市田いてととらうらいふ
う 雑ちのとおかいらんいせいまい と 三 永 イ 田

丁卯の辰^{つとむ}春といふ浄^{じやう}をうをうん^{うん}がく
 出^いま^ます^す一^いふ^ふ。ま^ます^すよ^よ赤城^{あかぎ}の文子^{ぶんし}が子^こを^を付^け
 とい^いあ^あゆ^ゆつ^つの^の何^{なに}で^でも^もさ^さら^らあ^あう^う二^に千^千と^とあ^あり^りと^と云^い
 出^いし^しふ^ふ大^{だい}十^じ二^に出^いふ^ふと^とん^んま^まく^く纏^{ちん}や^や一^いふ^ふ大^{だい}永^{えい}
 イニヤ^い河^か東^{とう}が^がら^らぬ^ぬ大^{だい}雀^{さく}人^{じん}舟^{しゅう}さん^{さん}の^の声^{こゑ}志^しや^や了^{りょう}。
 美^み志^しま^まが^がし^しゆ^ゆと^とば^ばく^くし^しま^まゆ^ゆ。^人十^じ二^にと^とん^んで^でと^とを
 い^いひ^ひな^なん^んと^とよ^よ大^{だい}お^おあ^あん^んあ^あま^まや^やせ^せふ^ふ。^大恒^{こゝろ}
 ち^ちの^のと^とあ^あま^まや^やん^んせ^せふ^ふ。^大け^ける^るを^を押^おし^して^てと^とい^い

ぬ^ぬつ^つん^んく^くと^とお^お新^{しん}造^{ぞう}の^の恒^{こゝろ}こ^ころ^ろに
 け^ける^るか^かう^う酒^{しゆ}ど^どく^くを^をそ^そく^くと^とん^んと^との^の大^{だい}行^{ぎやう}でも
 け^け酒^{しゆ}を^をの^のむ^むと^との^のと^とを^をつ^つ切^きり^り中^{ちゆう}の^の悪^{あく}酒^{しゆ}を^をれ^れが
 寺^{てら}あ^あふ^ふ雄^{ゆう}た^たら^らの^の廊^{らう}の^のげ^げい^い志^しや^やも^も去^こ年^{ねん}の^の
 春^{はる}う^う正月^{しんげつ}ま^まで^でハ^ハか^かく^くと^と持^{もち}あ^あら^らう^うと^と酒^{しゆ}を
 や^やう^うと^とけ^け正月^{しんげつ}の^の十^じ二^に日^{にち}も^も家^{いへ}も^もあ^あま^まも^も仮^{かり}室^{むろ}の^の
 御^ご面^{めん}福^{ふく}を^をひ^ひが^がさ^さら^らう^うと^と寺^{てら}れ^れら^らあ^あ一^いと^とい^いふ^ふと^と
 川^{かわ}ま^まら^らう^うの^のあ^あが^がや^やう^うよ^よ見^み世^よを^をさ^さら^らう^う十九^{じゅう}日^{にち}の

日うつゝ麻着がくろわやくとめくまある瀬く
持上りこゝの活の聲を發しぬ。まうたらり
ほよ支園とこらちと。あ方見まぬがたまあり
かひの事まぎく知らく指アを。マしけ向ふ
ろの所らめんの樂ん店がらしてま中一ぬ。樂が終ハ
七町すまがまゝくおらちと。ナドかひの事まぎく
知らくいっア。まこのをまぎく おのちア お ん せ ん せ
はら 永 ア 先 生 ノ こ ろ ぬ ハ ち ぎ ノ 大 ア
ア
ア

他ろさんとのよのよのよは口ハ音んなまおめり
やまゆきといのい庭ん者ちがらすとぬの事ハ終入
終入かどのやぐすまなるといひぬ。おまては
果でも家でも。二ハ中をあるいといふのむ
おまやうん 永 て り ご 先 生 と い よ お や う ま は ら し ま は ら
大 か ま り く 誰 之 様 さん。又おまのいななまん ア
ま は ら。 大 是 を お ま の し ら う ま は ら し ま は ら
らまちやうん み の よ の あ と の ち の ら え け い

永かえんじか通りのあまき屋。今年のをむしきやけら。

大 ちよよひのいのもろ月廿四日。夜又世のちがう

とて今年清負人の縁ひて四月朔日。ちがう中

あそとてんまがぬをていひ合の移れちてまねい

か通と。あつと形現不違命。あす下かひのち

志のいしとせとちとせと **い者** 味ちとあひらく

は、あなまは甲一 **大** ちよよ **若** び新二とてちうす

大 ちよよ **大** ちよよ **大** ちよよ **大** ちよよ **大** ちよよ **大** ちよよ

アイ ちよよ ちよよ ちよよ ちよよ ちよよ ちよよ ちよよ

よまきくすんふ花のじ花の温泉とてちよよとて

移まろく清よ友義よあつての。ちよよちよよちよよ

とてちよよちよよとてちよよちよよ。丁よあてあせん

まのちよよちよよの余ちよよの **大** ちよよちよよちよよ

ちよよちよよちよよちよよちよよ **大** ちよよちよよちよよ

ちよよちよよちよよちよよちよよ **大** ちよよちよよちよよ

ちよよちよよちよよちよよちよよ **大** ちよよちよよちよよ

竹でつる所をたぐし、夏は多し、冬もよりのやと出まぬ。[永]
コウ 雑やとの酒をとり明はかかんぞくイヤア あり 壺に
大い壺の画の書る[永] 舟をまじり大由美庄に[永] 河
の舟仲町よりまじりまじりいさる。今八行あり
あろう大[永] 舟にとうあうのあまあばとりのあて
らゝかゝあひの場一の道あり若中へけけ中
小田原町でえうけぬ[永] 行でもとの壺ありあて
よこ一な[雑] ずのぞえあたまのけけはかづきんあ

らゝますのりゝきませふ[永] なるやとまもこらう
若ちのあひらへ[壺] 雑 出かましまー〇〇のあ
舞のせうとまゝ氣ちやまどサドとまゝいりま
ど入りより

息行の謔言

明のからそと強つく坊あしからやのあぢえんは着茶
のあぢえんは壺にのあぢえん。トテコとかくとまやふい
のあぢえんは壺のあぢえん。トテコとかくとまやふい

よ。くたをわすれのしむらひにいらふをせむひかましますよ

と身をしてんすくよ見におつちふせり
ゆふしん せむらひのまはるる □川存通のまはるる □川存通のまはるる □川存通のまはるる

くららひのまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

はきまをうせむらひ
とせむらひのまはるる □川存通のまはるる □川存通のまはるる

是世をくらら福でもあがあまのやど有かかそ支固

もあつちも大ん世にまほ見世をほつ後入の行後

万葉の二つは。新を出しけしこのが毎どしらとせし

とつちの勢が初まといつあつちもほつしらとせし

あせしむらひにひらきさし通ふあせし
あせむらひのまはるる □八 □八

□茶の行はむらら。むららのしむらひのまはるる

おん力もあま有かか。行てもらむららとせし

をいづらまほなむら □後宅を見物まはるる

いづらま □茶まほむらら。むららにむらら

そのまほむららむららむららむららむららむらら

まほむららむららむららむららむららむらら

くち □後宅のまはるる むららのまはるる

川中がどいすまらけとぬく。しんが籠かごよすのこいり
 みるまきごうか。今も何なにのあぬこ。丸多まるたひやの男おとこを
 引ひく笑わらひまじる中なら。何なにの事ことに縁ゆかりはままのあか
 通とほるあぶあて事ことも後あとに控ひかや足あしううひひをど
 何なにけりふ様さま子こ様さまとく海うみ小こと大おほ様さまのああん店てん
 〇何なにじや中なか賑にぎじや。夏なつはごあももししんでああぬぬふ
 〇そんを多おほししのささま座ざの活いき春はるといいふががああんん
 つつししとといいや。今夜このよの遊あそんんといいふああいいちちののここいいや

手てがよよひひ何なにももととくく事こともも遊あそぶぶししととええららままああんん
 喜よろこぶぶのの月つき遊あそぶぶむむららううのの六むつつひひももどど今いままでまで八はち十じゅう
 〇十じゅう度どよよなないいくくいいぬぬどどや海うみ所ところははててええ通とほる。
 〇何なにももななららとと事ことののううののいいののささももああんんだだんんとといいふふ。ええななごごを
 〇何なにももああすするるががよよととああるるぬぬののささももああんんだだんんとといいふふ。ええななごごを
 〇何なにののももああるるとといいふふんん。船ふねををててのの板いたをを接つぎ
 〇三さん股こ又またううままひひてて。ゆゆぎぎんんののああんんよよ大だい様さまやや。ととれれままで

とし桐の箱盛りとぞいひききけく

見まゝの御札 二尊の都合

降中^{とちゅう}はかばかの御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
さとしはあまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。
あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

あまの御子^{みこ}の御願^{ごがん}はあまの御子^{みこ}にまかされど。

花^サヤグア^クおと^シま^如ト^リマ^秘ま^をか^けゆ^ら

袋^のく^ア櫛^のり^よい^け事^{。船}が^押い^さが^アア^ア

何^とと^さん^と後^に花^まご^まん^なん^か。マ^ママ^網ご[。]

如^ニア^行は^成と^揚け^た花^ア一^層網^ごとい^い事[。]

て^おご^んさ^アあ^ア。ま^よ網^ごとい^いら^くら^アア^ア。

お^ろ顔^のい^さ。如^素笑[。]如^け係^いご^ます^の。花^ご

ん^とら^ちが^あき^いせん^後。と^らあ^いる^男の^男り^ちら^に

如^素登^ごん^ご押^ます^てい^ゆら^と持^つて^ます[。]

如^あん^まり^おと^ひく[。]酒^よす^つり[。]多^時み^ま

ま^を持^つく[。]ま^あら[。]如^イ生^じご^ごら[。]ま^ん。

如^イし^りく^まび[。]ま^よほ^のあ^りけ[。]花^ご

ら[。]ま^よ一^層櫛^ごく[。]お^んな^ん。

花^ア一^層櫛^ごく[。]ら[。]お^とて[。]と^れの[。]網^ご。

と^らい[。]大^津の[。]如[。]い[。]け[。]。

よ[。]網^ご。下[。]あ[。]お[。]ま[。]。

あ[。]。

ます。まへ。**如**さんごらう一町のちやん屋の屋敷に
とるよせやの**葉**モウ行はれへにたつません**如**な
しく**葉**へたやなす**如**ウあなをいそぐせ
葉かごまのほてどなりせんく**如**葉世さん
半るな**葉**アイ**如**葉さん。緑け何存無一**葉**で**葉**
一ぬ飯宅のやまをいそぐせとては出なす久**如**あ
福てどよもる物のうなをいそぐせ**葉**とんごら
でどらどいらく**葉**せせん。 **如**どうとも緑けどら

川界通うとらうこめいあふらぶりちちねり後後
すじに福つてやせよすぶ地守とらなりのあてをいそぐ
万字屋の格うなまうくこいんとあつちをいそぐ
のていそぐらあまふちをいそぐ子の日のいそぐ
大甲あつちの屋敷をいそぐ大甲あつちのり
すて園をいそぐまあふらぶりちちねり
長七候をいそぐあつちの屋敷中の方字屋すのあま
登の都をいそぐ色で近の屋敷をいそぐあまのり

かがてんのめいからほへまななる色角出まきくひ
 みのりをゆへに優座のりふまをれてなづけのり
 又くわきくまよひいさふすぎての移ら上戸系
 ずいふいでまその丸海老やち未まを移り
 大まを座大に座文字座よ誠まことせんや万書座万字
 座二文字座河内座巴座たる色やわり一一家系
 ら非やかくの通りでこせまう案うくわりてふ
 びんす移元とるよ移りうよ移り一まよ如まき
如まき

くこなるまをちや移るるなるる書まいつくせを
 てのまが目土つひ座ぐりのまうす一のせよ案姉お
かん姉かんへらまやうくわうまえせん移元マ移りて
 座後ドヤ朝孫がなうイ見よ如ナセ元イ元移りて
 りるよ朝日如元元の元ナセ朝日とつくと連
 せんあふむのりまえす如ナア今むらうまよ
 只元行どさす如行よつとまく朝日とま
 しくもよ夜が明くうとまのく。とこで元

今の申ふよ **如** ぬのうら **如** 花 **如** 花 **如** 花
如 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
何をりかえまのよ **如** 花 **如** 花 **如** 花
そ是花の中ぐ **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
いせよ **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
てあり **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
らちりて **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
如 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花

と花をたぐてしをさうんとかすおろしとせんらなせり火練の
おふ如葉のゆふちをのちとてこほり如葉のゆふちをのちとて
おろしてしをさうんとかすおろしとせんらなせり火練の中
らちりて **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
よく **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
如 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
の **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
おふ **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
其 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
も **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
そ **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花
金 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花 **如** 花

来り多し。御中。しな中納の仮家と。又らあし
 久の原の水より遊女のすまおなす事。いづれは
 ありとこの御かきみもあはれそのま遊女のお
 まりの唐壬あつに桐鴉渡りのほろろ 日中を
 江神橋をく夜のせ病有痛く船の他ちろよ
 夏ハせくふしあしと。家よりついでに口の君の
 川中遠の月の夜舟をこつ役のろろふ夜と
 きてくなく。いハ通ふ下は来船と作らるその

原の嶺もかまふあはぬ大通をむく水と
 叫ぶるいしあがらどきまら。水よりづく陰陽の
 晴春の道をむきどなる。きく陰のまん中納と中
 央の仮宅ハ大文字やどやむいふナシト 鶴舎 秘へ
 へち **花** どの又朝日のせめさんが春をたのくらん
 へち **花** どのあつせん久 **花** どのあつせん久
 中納。おまが美しいと陰 事ハ毛志さみり少カ
 と香よせし。きくあふんせかけてえん

なり流の橋とあ持一休りまよやせしるいぬの
腰とこやまは。釈迦の佛の門での通りをみる。こゝを
各通と称羨なす。[花]野子ハ夜ミセを見候
[花]如極地よりハ悪口と舌[花]口舌のり金
子活のまて[花]けいせいよニ毎夜はう[花]花あふ縁
後あり九月ハ[花]頰根の山よかくるれば。衆權
謀扇。實相の月とともありもに佛體とありは
上か。今ハ行まはむぞ。又法花經群言論品よ

曰。為采牛車出於火宅。五町の者こそは。並木
町へまき。お月来りまう。[花]無光なるふ。不せくまぞおき。ひ。若海とて海の
か。くめはひ。く。釋業人の心をなす。あぶ。あぶ。夜
[花]釋迦の釋迦如來。心とふま。く。勸と白け。友を京
[花]同佛よ。く。先例よ。ま。せ。く。く。と。角並木町
か。宅あり。あ。ん。く。位。右。を。明。後。一。店。住。員。の。ま。金
を。あ。よ。あ。あ。う。ま。の。か。せ。き。あ。あ。し。も。み。流。り。並。木。町。

まらまら石津の土地となんぬ。あまら之仮宅乃
くあ我後着ます。すてふ明がんとりんを、又店を
くえんりのなげし。あまぎの縁ぐらう。先生の方便
をまのくはき不仮の相ぬゆま。ナド
後敷行は沈ひハ移らう。相法を志うまから控。
わーおまもあゆじが。夫熱性ハ近年請ふ地
熱ひまじて。おまらう。あすこの東や家の形及夜文
こよぬけ。田この地ぐらの沙汰も金ひ牙。悪鬼羅刹

ハ後りぬけ。後生神ぞ。貸一夜具をてら。わーと
かのみやう。かて中。地ぐらにるま。紙中の
まゆも是あいつぐ。増えま。持身身地ら。其後書
縁書の切もせじ。店よりあら。まあく。らも
なまむひ。酒。何と性根う。其熱や。譽うつあてハ
あつなう。あまら。前もえ。和運をひ。して。願書
のぞくもはまひ。一人。そ行各叫喚の地ぐら
物主あかす。あまら。の教とあ。一ツ切。庇生書

是^ぜを^ごな^ん元^{げん}生^{せい}海^{かい}を^どハ^ハ佛^{ぶつ}の^た職^{しやく}を^もて^も職^{しやく}を^もて^も有^あら^らん
ま^まつ^つの^の風^{かぜ}の^の荒^あの^の世^よま^まの^のぬ^ぬの^の小^こ通^とも^も。看^みく
地^ちづ^づく^くの^の房^{ぼう}の^のを^を。見^みぬ^ぬの^のり^りして^{して}流^{なが}る^る時^{とき}ハ^ハ支^し佛^{ぶつ}の^の乃^の
も^もま^まつ^つん^ん法^{ほう}傳^{でん}の^の母^ぼの^のを^を。九^く丈^{じやう}の^のそ^そら^ら五^ご家^けを^をと^とり
て^て並^{なら}む^むの^の形^{かたち}と^と一^{いつ}致^ちな^な。地^ちづ^づく^く退^{たい}居^ぐを^を母^ぼの^の
ま^まの^の儀^ぎの^の並^{なら}む^むを^をい^いら^らむ^むの^の事^{こと}。去^この^のの^の源^{げん}の^の
十^{じゅう}日^{にち}の^の折^{せつ}角^{かく}を^を折^せじ^じ格^{かく}を^をと^とり^り内^{うち}中^{ちゆう}を^をと^とり
か^かつ^つけ^け十^{じゅう}丈^{じやう}の^の日^{にち}の^の時^{とき}を^をと^とり^り。こ^この^のや^やの^の船^{せん}や^や橋^{はし}船^{せん}

お^おの^のの^の教^{きやう}の^の市^{いち}を^をと^とり^り。仮^{かり}宅^{たく}を^をと^とり^り。中^{ちゆう}
海^{かい}の^の折^{せつ}り^り。と^とり^り。母^ぼの^のか^かの^のき^き。地^ちづ^づく^くも^も忽^{いつ}
ま^まつ^つせ^せく^く極^{ごく}樂^{らく}世^{せい}界^{かい}と^となり^り。や^やの^の事^{こと}を^をと^とり^り。家^けの^のも^も
箱^{はこ}根^ねの^の清^{せい}ん^んの^のま^まり^り。時^{とき}に^に家^けに^に入^いる^る事^{こと}あ^あら^らん
の^のに^にて^て阿^あ羅^らの^の世^{せい}も^も佛^{ぶつ}の^の奇^き蹟^{せき}を^をと^とり^り。海^{かい}の^のま^ま
あ^あら^らん^ん。一^{いつ}品^{ひん}有^あり^り。ま^まら^らん^ん。と^とり^り。是^ぜを^をと^とり^り
と^と。懐^{くわい}中^{ちゆう}の^の短^{たん}冊^{ふみ}の^の中^{ちゆう}の^の所^{しよ}れ^れを^をと^とり^り。知^ちる^る事^{こと}い^い
ら^らん^ん。と^とり^り。所^{しよ}の^のひ^ひみ^みの^のら^ら。賞^{しょう}居^ぐ店^{てん}造^{ぞう}作^{さく}附^ぶ是^ぜを

此より退散悪魔降伏のれしげれを門はな
たりと云ふは地獄の破滅目録なりと云ふは清てなく
なり事朝りふ霜のどろ也かろふは蒲の又た雲のれと
あまふはゆめく驚ふとなる也。叔と叔の首通る。四葉巻
の更折早してその後家毎ふれれと法り年ハかろ
ゆえんと云ふまてり。け物吉ふ二六中の女席へりふ
物よらば内裡のものまぐ残は。まをたか壁へま
ま。朝日のめまをれは清く。あむあむと云ふと

門よりさるるまてり遊ばるるの所すもよとて似
まう。け内姫族仲の家根船の笑法よおりせ。け
まろりかろく大てけ

高尾解脱

大勢の中よすた首をうらまて殺す物と。一公
不乳の育とぬい殊勝より七ハりそふりう物まハ
是をこらんとてアア煙一や空天かろうたまをた
拳切をりるあふ。はち〜け世の人ふあり。

まことの海をわたりて（なごみのうみをわたりて）光明遍照十方世界（くわうみょうへんしやうじふしうせかい）
 宛生攝取不捨（わんじやうしやくしゆふしゆ）
 了も。空深無際（しやうしんむげん）
 みじか（みじか）の柄（へら）も。結（むす）然（ぜん）たる白（しろ）を（を）ぞく
 洗（あら）ひ髪（かみ）をくハ（くは）網（あみ）よ。案（あん）座（ざ）出（い）るも（も）也（や）。
芙蓉
 ひびき（ひびき）方（かた）治（ぢ）のむら（むら）。けし（けし）つ（つ）ふ熱（あつ）く（く）又（また）よ（よ）か（か）らむ
 ぢ（ぢ）く（く）や（や）る。こ（こ）と（と）お（お）と（と）う（う）と（と）目（め）を（を）二（に）浦（うら）の（の）そ（そ）ら（ら）も
 言（ことば）屋（や）が（が）政（せい）界（かい）の（の）と（と）ま（ま）う（う）立（た）體（たい）不（ふ）の（の）あ（あ）て（て）。佛（ぶつ）よ（よ）ま（ま）

ぢ（ぢ）り（り）か（か）ら（ら）ま（ま）女（によ）執（しやく）し（し）て（て）因（いん）縁（えん）こ（こ）し（し）か（か）ら（ら）む（む）
 目（め）を（を）二（に）股（また）の（の）底（そこ）の（の）こ（こ）ろ（ろ）に（に）け（け）し（し）つ（つ）て（て）の（の）ま（ま）ら（ら）し（し）
 途（ち）よ（よ）ま（ま）ら（ら）し（し）て（て）お（お）連（れん）大（だい）お（お）業（ごう）の（の）氷（ひ）み（み）ぞ（ぞ）ら（ら）し（し）
 ま（ま）ら（ら）し（し）て（て）お（お）世（よ）も（も）あ（あ）ら（ら）し（し）て（て）の（の）海（うみ）も（も）あ（あ）ら（ら）し（し）て（て）
 や（や）見（み）る（る）も（も）う（う）し（し）ぬ（ぬ）水（みづ）の（の）面（おもて）を（を）ぞ（ぞ）ら（ら）し（し）て（て）お（お）ら（ら）し（し）て（て）
 今年（ことし）と（と）て（て）ら（ら）し（し）て（て）百（ひゃく）千（せん）九（く）百（ひゃく）と（と）あ（あ）ら（ら）し（し）て（て）ま（ま）ら（ら）し（し）て（て）
 お（お）ら（ら）し（し）て（て）お（お）ら（ら）し（し）て（て）お（お）ら（ら）し（し）て（て）お（お）ら（ら）し（し）て（て）お（お）ら（ら）し（し）て（て）
 ぢ（ぢ）り（り）か（か）ら（ら）む（む）古（ふる）傳（でん）の（の）女（によ）宛（わん）の（の）よ（よ）う（う）に（に）あ（あ）ら（ら）し（し）て（て）

なる。國清こくせいひくこの縁のる期日の如業あり
かこも。け家業けいごうを離す。一筆を平らちんはまどとちり
ころる海虎の利益を世襲して。何處の苦患をまぬ
かさんと。叔と答をあはしころ。あま不ひんと。心
石。佛皇を得るをまじり。すころのなんご六珠
柱のころ。合掌がとぬ。一母心。如。叔とをく
ちどあころ。かく有んとあひ。あつととそらぬ
解よりてわ。どは免のむ。ころ。青楼よ

人とあふ。あまののあつてその罪のひして
佛皇の業固ぬるを友。世ころのそふ隆運す
か。一を業。一の宿の功。力よ。い。是。あ。ぎ。佛。前。よ
ね。ろ。ま。一。國。魔。も。更。ふ。つ。を。ま。す。ト。母。是。ご。を。登。堂
を。あ。の。わ。か。ふ。い。し。ろ。ぬ。に。板。樂。す。の。け。の。隨
求。は。羅。虎。ぞ。ろ。ろ。く。あ。ろ。ろ。邪。擧。る。は。ろ。ろ。け
か。の。こ。は。生。を。あ。楽。う。ま。じ。ひ。ね。し。[サ]あ
か。ろ。ろ。あ。け。世。ま。く。が。の。獲。へ。う。深。も。ま。か

新好戲作



丁時
天明九巳酉歲
南月二日

